

2025年6月1日午前10時30分
復活節第7主日 CS合同音楽礼拝
司会 楠元 桃
奏楽 新島学園聖歌隊

讚美歌・詩編交読・信仰告白では起立をしますが、お立ちになりにくい方は、座ったままでどうぞ。

(平称のあきつ)
前奏
招きのことば 使徒言行録 1:11
讚美歌 57「カリヤの風吹おる丘で」 一同
交読詩編 92:1-4(P.106/102)

祈り 司会者
《関東教区お祈りカレンダー》
新津教会 五泉教会 燕教会
(主の祈り)

奉献曲 “Ave Maria” “Amazing Grace”
新島学園聖歌隊

聖書 ローマの信徒への手紙 7:19-25(P.65)
メッセージ『望みなき人々に希望を与えた歌』
祈り 川上 盾 牧師

讚美歌 451「くすしきみ恵み」 一同
献金 一同
(献金感謝の祈り)

信仰告白(カナダ合同教会) 一同

頌栄 26
祝禱 川上 盾 牧師
後奏
報告・紹介

<招きのことば>使徒言行録 1:11
「カリヤの人たち、なぜ天を見上げて立っているのか。あなたがたから離れて天に上げられたイエスは、天に行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになる。」

《6月礼拝当番》 徳江由利 岡安茂能
伊藤暁啓 藤岡純子
田村佳奈 渡辺雅之

《今週の集会・行事》
◎ 本日礼拝後 新島学園聖歌隊ミニコンサート
◎ 4日(水) 10:30 & 19:30 聖研祈禱会
◎ 6日(金) 10:00 関東教区婦人会総会(高崎教会)
◎ 6日(金) 10:00 会堂清掃 C組

《次週の主日》
◎ 主日礼拝 10:30 ペンテコステ(聖霊降臨日)
メッセージ『立ち上がる会衆』

聖書:新約:使徒言行録 2:1-11(P.214)
讚美歌 342, 343, 406, 28
交読詩編 51:12-19(P.60/56)
聖餐式(讚 78-2,3)
司会:植松みよ 奏楽:川名ひさ子
*役員・CSスタッフ就任の祈り
*礼拝後、6月定例役員会

《予 告》
◎ CS午後礼拝(ペンテコステ) 15日(日)13:00
◎ 婦人会例会(岩瀬宅) 19日(木)10:30
◎ 森下滋牧師メッセージによる礼拝 22日(日)10:30
◎ “牧師JAZZ” 22日(日)14:00

《報 告》
◎ 新島学園聖歌隊による音楽礼拝

ハンドベルと合唱で音楽の献げものをして下さいます。礼拝後はミニコンサートも行ないます。若者たちの演奏に、力をもらいましょう。

◎ 次週はペンテコステ礼拝です
5/29(木)は“昇天日”。復活したイエス・キリストが弟子たちと共に過ごした後、天に帰られた日です。十字架の失意の経験の後、再び師であるイエスと別れた弟子たち...不安な彼らに聖霊の導きが降り、教会の宣教が始まった「教会の誕生日」です。次週はペンテコステを覚え、聖餐式を行ないます。ペンテコステのシンボルカラーは赤。次週は何かひとつ赤いものを身につけて礼拝にお出かけ下さい。またペンテコステ献金にご協力をお願いします。

◎ 6月22日 “牧師 JAZZ II”
オルガン修復のチャリティライブとなりますので、チケット販売にご協力下さい。ご自分の分だけでなく、ご友人・お知り合いにもぜひお勧め下さい。なお、6月22日の主日礼拝は森下滋牧師がメッセージに加え、奏楽も担当して下さいます。お楽しみに!

◎ 本井康博先生講演会 (5/25)
前橋教会の源流について詳しいお話をいただきました。来迎迎える教会創立140周年に向け、改めて会衆主義教会のよき伝統を受けとめ直しましょう。本井先生の著書の残部があります。売り上げはオルガン修復献金として下さるとのことです。

◎ 役割分担一覽表
本日、2025年度の確定版をお配りしました。ご自分の名前を確認し、ご協力をお願いします。

《先週の集会》

	ジュニア	シニア	姉弟・大人	計
CS朝礼拝	5	3	11	19
	礼拝堂	オンライン		献 金
主日礼拝	46	18		36, 366
本井先生講演会		46		

※ババ震災救援募金(5/25) 3,401円 (計 24,949円)

《メッセージ》「枠を超える自由、壁を超える愛」川上牧師
マルコ 2:23-27, ガラテヤ 5:13-16(5月25日)
▼人間が秩序よく社会生活を送るためには、規則やルールを守ることが必要だ。みんなが自由に振舞えば「万人の万人に対する闘争」になってしまう、自己利益を損なう。自由の一部を放棄し規則や法律に従い行動することで、結果的に自己利益を得ることができる(社会契約論)。▼しかし、規則や法律は一旦定められてしまうと、その中にお行儀よく収まることをよしとする精神を生み出す。自分が求め人にもそれを強要し、結果的に生き生きとした生き方を見失ってしまう。イエスの時代の律法学者たちがその典型だ。▼旧約に定められた律法は、人が神の前に かに生きるかその道を示すもの。律法を守る生活のシンボルが安息日であった。もとは人が労働から離れ、礼拝をし祈ることを通して、身体と心回復させ新たな生活に向かう...そのようなものであったが、イエスの時代の律法主義者たちは「安息日厳守」が目的となってしまっていた。▼そんな中、イエスはしばしば安息日の決まりを破り、自由に振舞った(病気の癒し=労働、自由な食事等)。それを咎める律法学者たちに「安息日は人のために定められた。人が安息日のためにあるのではない」と返された。イエスは「枠を超える自由」を大切にされた。そうすることで形式主義・権威主義がまひる社会に風穴をあけられたのだ。▼今から161年前、開国前の日本からひとりの若者が脱出した。新島七三太、後の新島襄である。外国の文化や科学を学びたいという少年の憧れ...しかし幕藩体制はその夢をかえしてくる社会ではなかった。見つかりば打首獄門...その危険を冒して彼は出獄する。枠の中におとなしく収まって一生を終えることに耐えられなかったのだ。▼枠を飛び出した地、アメリカにおいて新島(既にジョー=襄と呼ばれていた)の生活・学費の世話をし、学校への紹介をしてくれたのがハーディ氏。アメリカの会衆派教会の信徒である。会衆派はアメリカのキリスト教の中でも、もっとも自由を尊ぶ教派であった。▼そんな会衆派教会での学びや出会いの中で、新島は「枠を超える自由」と共に、もう一つ大切なキリスト教のエッセンスを知る。それは「壁を超える愛」というものである。▼民族の違い、貧富の差、職業や病気による差別...そのような壁を乗り越えて、すべての人に神の愛を届けられたイエス。最後は十字架に架かれようと、隣人への愛を貫いたその姿に深く心打たれた。そして開国間もない日本に、そのイエスの道伝える志を立て、宣教師となり、日本に帰国する。▼パウロはガラテヤの手紙の中で「あなたがたの自由を、罪を犯す機会とせざるに愛によって互いに仕えなさい」と教える。「枠を超える自由」が、「万人の万人に対する闘争」とならないために、「壁を超える愛」を学びなさい、と語るのだ。このふたつのコンセプトが融合するとともに、キリスト者の本当の豊かな生き方が生み出されるのである。